

様式第32号 (第2次改正・全部、第25次改正・一部、第26次改正・一部、第40次改正・一部、第50次改正・一部)

遺族補償
遺族特別支給金
遺族特別援護金
遺族特別給付金

決定通知書

| | |
|----------|--|
| 認定 番号 | |
|----------|--|

年 月 日

----- 殿

地方公務員災害補償基金 支部長 印

遺族補償
遺族特別支給金
遺族特別援護金
遺族特別給付金
の決定について

年 月 日付けをもって請求（申請）のあった -----
について、審査の結果、下記のとおり決定したので、通知します。

記

- 支給
- 不支給

理由

受給権者の氏名

一 遺族補償

()

平均給与額

----- 円

1 遺族補償年金支給金額

----- 円

(1) 年金証書の番号

第 ----- 号

(2) 受給権者以外の遺族補償年金の
額の算定の基礎となる遺族の氏名

(3) 支給開始年月

----- 年 ----- 月

2 遺族補償一時金支払金額

----- 円

(1) 支払の場所及び方法

(2) 支払日（振込日）

----- 年 ----- 月 ----- 日

二 遺族特別支給金・遺族特別援護金・遺族特別給付金

遺族特別支給金

----- 円

遺族特別援護金

----- 円

遺族特別給付金（年金・一時金）

----- 円

1 支払の場所及び方法（一時金）

2 遺族特別支給金
遺族特別援護金
遺族特別給付金（一時金） } 支払日（振込日）

----- 年 ----- 月 ----- 日

3 遺族特別給付金（年金）支給開始年月

----- 年 ----- 月

三 その他

(教 示)

1 支部審査会への審査請求

この補償の決定（以下「本件処分」といいます。）に不服がある場合には、本件処分があったことを知った日の翌日から起算して3か月以内に地方公務員災害補償基金_____支部審査会（以下「支部審査会」といいます。）に対して審査請求をすることができます。

なお、地方公務員災害補償基金を被告とした本件処分の取消しの訴え（下記3）は、審査請求の前置規定（地方公務員災害補償法第56条）により、審査請求に対する支部審査会の裁決を経た後でなければ提起できません。

2 審査会への再審査請求

(1) 審査請求に対する支部審査会の裁決に不服がある場合には、その裁決があったことを知った日の翌日から起算して1か月以内に地方公務員災害補償基金審査会（以下「審査会」といいます。）に対して再審査請求をすることができます。ただし、その裁決があった日の翌日から起算して1年を経過すると再審査請求をすることができなくなります。

(2) 上記1の審査請求をした日の翌日から起算して3か月を経過しても裁決がないときは、裁決を経ずに審査会に対して再審査請求をすることができます。

3 本件処分に対する取消訴訟

(1) 本件処分の取消しの訴えは、当該処分についての審査請求（上記1）に対する支部審査会の裁決を経た後に、地方公務員災害補償基金を被告として（基金を代表する者は地方公務員災害補償基金理事長です。）、その裁決があったことを知った日の翌日から起算して6か月以内に提起することができます。ただし、その裁決があった日の翌日から起算して1年を経過すると本件処分の取消しの訴えを提起することができなくなります。

(2) 次のいずれかに該当するときは、支部審査会の裁決を経ないで本件処分の取消しの訴えを提起することができます。

① 上記1の審査請求をした日の翌日から起算して3か月を経過しても裁決がないとき。

② 本件処分、本件処分の執行又は手続の続行により生ずる著しい損害を避けるため緊急の必要があるとき。

③ その他支部審査会の裁決を経ないことにつき正当な理由があるとき。

(3) 審査会に対して再審査請求（上記2）をした場合には、その裁決を経る前又はその裁決があったことを知った日の翌日から起算して6か月以内に、地方公務員災害補償基金を被告として、本件処分の取消しの訴えを提起することができます。ただし、その裁決があった日の翌日から起算して1年を経過すると本件処分の取消しの訴えを提起することができなくなります。

[注意事項]

記の一の「平均給与額」の欄の（ ）内の額は、平均給与額が法第2条第11項又は規則第3条第6項の規定により定められたものである場合について、同項の規定の適用がなかったものとした場合における平均給与額である。

〔 この福祉事業の決定に不服がある場合には、支部長に対して不服の申出をすることができます。 〕